



特集 小規模特認校制度で開かれた学校に
濃南小学校



新一年生になる児童を対象に、希望すれば校区外から通学が可能になる「小規模特認校制度」。
豊かな自然環境と小規模である特色を活かした教育に力を入れる濃南小学校が今年度から小規模特認校になりました。市内で初めて導入された同制度と、濃南小学校の取り組みを紹介します。

問 教育総務課 (内線369)

小規模特認校制度

小規模特認校制度とは、小規模校の存続を願う地域住民や学校関係者、あるいは特色ある教育を行う小規模校への通学を希望する市内の児童やその親の要望に応えるため、市が特定の学校を特認校として指定する制度です。本市は、令和元年度、濃南小学校を市内で初めて小規模特認校に指定しました。これにより、同小学校への入学を希望する児童は、校区外に住んでいたとしても一定の条件を満たせば入学が許可されることになりました。決められた校区の小学校に入学するのが通常となっている中、新たな取り組みで本市の教育が変わりつつあります。

濃南小学校の教育

濃南小学校は、鶴里小学校と成27年に開校した学校です。ふんだんに木が使われ、風合いがある校舎は、山あいの町にひときわ目を引きます。
同校では、豊かな自然環境の中で、小規模校の特色を活かし、一人一人の児童に対してきめ細やかな指導を進めています。また、令和2年度から小中一貫校になることをふまえ、小中の垣根なく専門教科の教員が授業を担当したり、小学校と中学校の教員が一つの教室で協力しながら授業を行ったりするなど、魅力的な教育をしています。



濃南小学校

教育目標
「やさしく かしこく たくましく」

児童数…73人
学年別児童数 (7月末現在)

学年	1	2	3	4	5	6
児童数	8	15	12	13	7	18

平成27年度に鶴里小学校と曾木小学校を統合して開校。5年目を迎えます。



濃南小の不易流行

濃南小学校
篠原 徹 校長

今 春、73名の全校児童と先生で学校近くの鶴岡山(曾良山)に登りました。1年生から6年生までが混在する8つの班に分かれ、曾木の中嶋さんをはじめ地元の方々が各班のガイドについてくださいました。急坂の難所では高学年が低学年の手を取り、声をかけ合い、一体となって登り切りました。ゴールの鶴岡城址では、皆で快哉を叫びました。(前頁・上の写真) 1年生から6年生、時に中学生までが手をつなぐところ、さらに地元の方々のお力を借りながら、人と人がつながるところが本校の「不易」のよさです。

写真1は、修学旅行で撮ってきた写真を自分で加工し、タブレット端末を使ってプレゼンする6年生です。ICT機器を駆使し、わかりやすく説明できました。将来的には遠隔地との授業交流まで視野に入れて児童のICT活用を進めています。

写真2は、中学校の加藤教頭先生(技術科)からプログラミングを学ぶ3年生。自分で組んだプログラムが動き出すと歓声があがりました。濃南小中の先生は、小中の両方で専門教科の指導ができるようにしています。教室には時に中学生の姿があり、運動会をはじめ、授業でも共に活動する機会があります。写真3は、低学年のためにわかりやすく工夫して読み聞かせをする中学生達。こうした姿が小学生にとって憧れとなっていて、自身の目標としている児童もいます。

外国語活動は1年生から始めています。(写真4) 少人数なので全員がALTとも十分に会話でき、全校で9割以上の児童が「外国語活動は楽しい」と答えています。さらに、高学年は教科英語への移行を踏まえ、タブレットを使った評価活動によって実力アップに励んでいます。こうした濃南小の良さを知った濃南小の良さを知っていただき、特認校制度を利用し、共に学ぶ児童が増えることを心待ちにしています。

少人数を活かした授業

温かい人間関係づくり

ふるさと教育の充実

授業では、学習課題について自分で考えたり、仲間と知恵を出し合ったりして解決していく方法を大切にしています。例えば、発表会などの前には、授業の中で何度も練習をし、互いにアドバイスをし、よりよいものを作り上げます。また、コミュニケーション力を身に付けるため、授業時間内に「濃南タイム」というペアやグループで話し合う時間を全校的に設けています。学級の人数が少ないため、こうした活動を体験する機会が多く、活動時間を長く確保することができず。また、先生からの指導も一人一人に行き届きやすくなります。



全校児童を縦割りグループに分け、朝活動で縄跳びや、一緒に給食を食べる「ふれあい給食」を行うことで学年の垣根を越えた温かい人間関係づくりを目指しています。また、隣接する中学校との連携にも力を入れており、小学校児童と中学校生徒がともに活動する機会を多く設けています。例えば、小中合同レクリエーションでは、小学生の児童と中学生の生徒が一緒になって新聞折り畳みゲームなどを通して遊びます。普段は別の校舎で生活する中学生と遊びを通して触れ合うことで絆が深まっています。



学校行事に地域の方が積極的に関わってくださるため、地域のことを学び、地域の方との絆も深まっています。例えば、お年寄りの方を招待してベテゴマやお手玉など濃南地区の昔遊びを教えてもらったり、シイタケの菌打ちやマレットゴルフを体験させてもらったりしています。また、自然に恵まれた立地を生かし、ホタルを年間通して飼育し、学校裏の肥田川に放流しています。



interview

特認校制度を利用して校区外から濃南小学校にお子さんを通わせている保護者の方

あ のきれいな建物は何だろー国道363号を走っていても気になっていた建物からランドセルを背負った児童が下校する様子を見て初めて小学校なのだと分かりました。仕事で田舎から土岐津町に引っ越して来たこともあり、自分の子どもたちにもできるだけ周りが自然豊かな学校で勉強してほしいという思いは普段から持っていました。そんなとき、広報紙を見て土岐津町からでもあの濃南小学校に通わせられる特認校制度があることを知りました。平成30年6月に開かれた同制度の説明会で初めて子どもと校舎の中に入りました。階段下にある大きな穴は、子ども心をくすぐりますし、ふんだんに使われた木材からは木の気持ちよい香りが漂っていました。説明会の間、先生に遊んでもらったわが子は、「その日からこの学校に行きたい」と話すようになりました。何回も確認した上で子どもの気持ちを一番に考え、入学を決めました。

濃南小学校に子どもが通い始めて5カ月。入学前と比べると変わってきたなと感じるところがあります。まず、話の聞き方。目を合わせて話を聞けるようになってきました。次に、子どもが書く字。漢字ドリルやノートなどで見ると字が丁寧になりました。クラスの人数が少ないこともあり、先生の指導も行き届いていると感じます。最後に、下の弟の面倒見がよくなりました。学校生活の中で、上の学年の児童あるいは隣接する濃南中学校の生徒と接することがたくさんあります。お兄さん・お姉さんに優しく接してもらったり、教えてもらったりする経験が生きているのかなと感じます。送り迎えは妻の日課で、朝は8時前に学校まで送ります。行き帰りに自然の中をドライブ気分で行くのは、家事の気分転換になると妻も前向きです。来年、下の子が一年生になります。濃南小学校に入学しようかと相談中です。

申し込み方法

対象となる学校と学年
濃南小学校に令和2年4月から入学を希望する新一年生
※濃南小学校以外の学校は対象になりません。

- 入学などの条件
1. 入学を希望する児童が、土岐市内に在住していること
 2. 保護者が、自らの負担と責任において、児童を通学させること
 3. 特認校の教育活動やPTA活動を十分理解して協力すること
 4. 原則として、児童が小学校を卒業するまで通学すること

手続き方法

9月～11月	「校区外就学許可申請書」を教育委員会で受け取り、必要事項を記入して濃南小学校長を通じて教育委員会へ提出する。
12月上旬	申請書に基づき、教育委員会と学校が保護者および児童と面談する。面談時に「校区外就学に関する承諾書」を教育委員会に提出する。
12月下旬	教育委員会から保護者へ通知が届く。
令和2年4月入学	

濃南小中コラム



小学生と中学生と一緒に運動会!?

小学生と中学生が合同で行う濃南小中学校団結運動会。令和2年度から小中一貫校になることを見据え、平成29年度から児童会と生徒会が協力して実施しています。今年は、9月21日(土)に濃南小学校のグラウンドを初めての会場として開催。一人一人が主役となって輝ける運動会にしたいという児童会と生徒会の願いを「輝～かがやき～」というスローガンに込めて児童・生徒が一つになります。



山田 恭正 教育長

ふるさとを生かした特色ある教育の推進

緑に囲まれ、夏には蛍が飛び交う自然豊かな濃南地区。そんなすばらしい環境の中で育った子どもたちは、素朴で純粋です。

過疎化が進み、子どもの数は10年前と比べ、約半数になりました。そんな状況の中で「なんとでも、地元の学校を存続させたい」という地域の方々からの熱い思いを受けて、鶴里小と曾木小を統合して新たに濃南小を開校し、そして、小規模特認校制度を導入しました。

さらに、令和2年度から濃南小中学校は小中一貫校にしていけます。濃南小中学校を小中一貫教育のパイロット校に位置付けて、小中連携の成果を市内の学校に広めていきます。

これまで述べてきました濃南小中学校の状況や取組内容に興味をもたれましたら、ぜひ、教育委員会教育総務課にお問い合わせください。

また、土岐市では、来年度から全小中学校でコミュニティ・スクール化を図ります。市民の皆様には、「我が町とともにある学校づくり」にご協力を賜りますようお願いいたします。

